




事例報告 H27-7

団体名： 特定非営利活動法人 NPOクワガタ探検隊

プログラム名： 育て！大都市の森・箕面国定自然林の守り人	
(1) プログラムの目標	持続的な「自然原体験活動」を通して、太古からの「生命の営み」を五感で体感し、自発的に森林にかかわろうとする『未来の森の守り人』を育成する。
(2) プログラムの概要	①” 四季変化” を体感できる「森林探検活動」 ②” 夏休み” を活用した「カブト虫里親飼育活動」（各家庭で増殖後、自然に帰す） ③” 創作森林昆虫紙芝居” の上演による「読み聞かせ活動」 ④” 子どもスタッフ” による観光客への「自然ガイド活動」
(3) プログラムの展開	
時間数	プログラムタイトル 活動内容 指導・支援の方法、ポイント等（教材等）
2	「森林探検活動」 身近な森林地域（公園など）を探検する。 （花さがし、クワガタ虫探し、ドングル拾いなど） <理科> ・「自然観察での注意事項」を指導する ・森林内では「班行動」をさせる ・「五感」をフル活用して、自然を体感させる
夏休み	「カブト虫里親飼育活動」 夏休み期間中「カブト虫♂♀飼育・産卵・幼虫増殖活動」を、各家庭で協力して行う。  <理科> ・各家庭での「飼育許可」を受けておく ・「正しい飼育方法」を指導する ・「飼育セット」（虫・容器・エサ等）を準備する ・9月には「増殖幼虫」を回収して自然飼育する
1	「読み聞かせ活動」 創作紙芝居「帰って来〜い！王者くん」の読み聞かせ会を実施する。 <道徳> ・「創作紙芝居（カブト虫編）」を用意する ・上記の紙芝居は「DVD版」でもよい ・子どもたちの「感想文」を紹介する （「創作DVD版」を希望学校に贈呈します！） 
2	「自然ガイド活動」 子どもが「ガイド役」となる「自然ガイド（箕面の森など）」を行う。 <理科> ・場所は「人々が多く集まる場所（モミジの頃の箕面滝道など）」で実施する ・安全のため「保護者同伴案内」とする ・事前に「自然ガイドのしおり」を作成しておく 
1	「発表会」 森林ESDの年間活動総括のための「発表会」を行う。 <総合> ・月例の「参観日」や「校内学習発表会」などを利用する ・写真や活動ビデオ等の情報機器も使う
(4) プログラムでの連携内容（①学校、②地域）	
①教員でもあり、小学校での理科を教えながら、『出前授業』（講師と教材セットを持ち込み）を実践している。しかし、なかなか多くの学校で取り入れてもらえるところまではしていない。 また、学校現場は、「多量の学習内容と指導の難しい児童の対応」で、多忙です。	
②「池田市の五月山グリーンエコー（植樹）」、「猪名川ネットワーク（ゴミ拾い）」、「地域コミュニティ（カブト虫里親飼育）」などで、地域との連携を図っています。 身近な地元から、『未来の森の守り人』を育成しています。	

(5) 活動の分析（学習指導要領との関連または森林環境教育の視点） 上位3項目

1 感性的	五感（目・耳・鼻・舌・手ざわり）を使っての「自然体感の方法」で自然を感じとる。 （特に、視覚の働きにくい「夜のカブト虫探検」などは、効果的です）
2 自然的	子どもたちが「強い興味・関心を示すカブト虫・クワガタ虫」に『視点をしぼりこむ』ことが大切です。視点を集中させないと「単なるあそび」になる。 その上、現代っ子は「自然遊び」の経験にも乏しい。できない。
4 現状	情報化（映像・ゲーム機）社会で育つ子どもたちを「自然につれ出すこと」は、不可能に近い。まずは、各家庭協力による『カブト虫里親飼育活動』から始めるべきである！

教科	項目	学習内容
4年理科	季節と生物	家庭で協力して「カブト虫飼育増殖学習」を通して、生命体の”死の悲しみと生命継承の喜び”を知る。
4年道徳	多様な生き方	森林には、多様な生態の生きものが「棲み分け」をして生きていることを「読み聞かせ」学習を通して知る。
4年総合	誇り	小さな「自然案内実践」を通して、『森林の大切さを人々に伝える誇りと苦勞』を知る。

(6) 活動の分析（資質・能力の視点）

2 未来像	大人にもできない「森林の未来像」を子どもたちに押しつけることはできない。 子どもたちには、『数ヶ月後、”たくさんのカブト虫赤ちゃんを育てよう！”』の”持続的飼育体験をとおしての未来予想”を体験させるしかない。
6 つながり	紙芝居等の「読み聞かせ会」を通して、『自然生命は、”つながりの中で生き抜いてきた事実”』を考えさせる力が身につく。
7 進んで参加	単に「自然探検会」に参加するだけでは不十分 『子ども隊主催の自然ガイド会』などの自発的活動を通してこそ『未来の森の守り人』が育つ。

(7) 実施後、参加者の変化

・日本古来からの継承されてきた自然観「共生・畏敬・感謝」に基づく自然体験は、多くの参加者に感動を与えていることは確実です。
・「子どもを主役にした自然体験活動」に重点を置いた森林ESDこそ、”未来の森の守り人”に誇りと勇気を与えています。